

# 品川支部

令和四年8月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
Tel 3442-7075

## 8月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 伊豆大島支部へ 移動例会で訪問

品川支部では一年半に一度の研修を兼ねた移動例会の会場を伊豆大島分教会長加藤夫妻のお世話で大島で行う事が出来ました。コロナ禍も収束するかに見えた六月末、初日は強風の荒々しい島の姿と翌日の晴天の美しい姿、島の歴史から島での布教について先人のゆかりの場所等を案内頂き、都の補助金も最大限に利用出来、有意義な経験をさせて頂きました。

### 「こどもおちば帰り」

夏休みを迎える昨今、感染者が今まで以上の増加となり、夏のおちば帰りも本部では、よりしっかりとした対策をして準備を進めております。八月最終日曜日までと期間も永く是非帰参して頂きたいと願います。



伊豆大島分教会の前で

大島まではジェット船で竹芝から1時間40分です。加藤先生も沢山の方にお越し頂きたいと言われております。島は都の補助も多く出ますのでご利用して頂き、おいで下さいとのことでした。

## ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会  
八月九日（火）午後6時〜  
場所 櫻京分教会

・支部例会 八月三十日（火）

場所

水豊田分教会 （詳細は二頁に）

・教区ひのきしん 八月五日（金）

担当組 櫻京組です、無理の無い様  
宜しく願います

・神名流し

・在宅センターひのきしん

支部外の活動は  
今月もお休みです

## ☆教区からのお知らせ

### 百四十年祭に関して

十月秋季大祭に合わせ、百四十年祭に向け諭達を  
発布されるとの事、翌二十七日に「教祖百四十年  
祭決起の集い」が開催されます。  
これに続き直属には十一月十日から翌二月十日  
にかけて、本部巡教が行われ、その後一般教会には  
直属毎に五月末迄に一斉に巡教が行われ  
その後本部月次祭において、教会長の登殿参列  
が行われるとのことです

## ☆教区長から年祭活動について

入江教区長から、教区としての年祭に向けての指針として「みんなでのきしん」を打ち出されました。これは対象はどなたも全員と言うことですが、既に少年会で推進している「夏休みこどもひのきしん」や青年会活動と連携して、七月から、年祭期間まで支部単位で毎月行って欲しいと言う事です。尚、品川支部では毎月の神名流しの後、大井町駅付近の清掃、在宅センターでのひのきしんを予定しています。各、日時や内容は情報ネットにも載せ活動して参ります

## ☆東京元氣プロジェクト

六月から始まったペットボトルのキャップで後進国の子どもにワクチンをして、累計九十四キロ、四十七人分が集まりました。協力有難う御座います、これからもよろしくお願ひ致します。  
又、自宅で消費しない賞味期限の一年以上の食物を募集して、フードドライブで必要な方にお分けする試みも始めました。是非ご協力の程。

## ・青年会からのお知らせ

青年会では東京教区青年会総会を  
十月二十三日に行う事になりました

## 時報手配り八月予定

手配りの協力をお願い  
手配りしていただいている方  
を募集しております。  
※ 内容は一人あたり近間での  
数件の配布のひのきしんです

拠点教会	3日号	10日号	24日号 17日号と合併	31日号
日本橋	直送	直送	直送	直送
本 荏	直送	直送	直送	直送
南 泰	手配り	直送	直送	直送
三ツ木	直送	直送	直送	直送
水豊田	直送	直送	直送	直送

# 品川支部例会

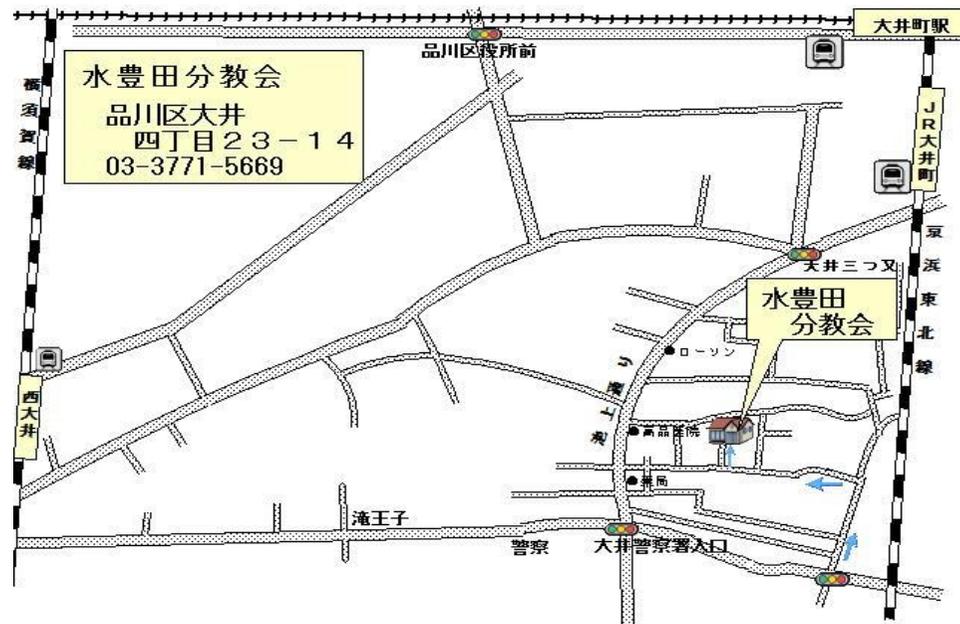
## 令和四年8月30日 (火) 11時開始

### 場所 水豊田分教会

(品川区大井四丁目23-14)

### 内容 座りづとめ よろづよ八首 八下目 東京教区、支部連絡事項 当該石田教会長挨拶

現状、例会の開催は20日に可否を決定いたします



### Post Truth



上級教会の祭典講話で、「ポストトゥルース (post truth)」について、お道にあてはめてのお話があった。ポストトゥルースとは、世論では客観的事実よりも、感情的・個人的な意見のほうがより強い影響力をもつこと。受け入れがたい真実よりも虚偽であっても個人の信念に合うことが選択される状況をいう。

さて、お道は陽気ぐらしを目指し、たすけ一條の道として教祖よりお教え頂いた。そこから、熱心な先人先生方の布教により燎原の火の如くお道は広まった。そして現在は、多くの教会系が続があり、その部内も多組織的になり固定観念も出てきた。

「何々はこうでなくてはならない」という個々の固まった考え方である。

にをいがけ・おたすけの手段として、伝統的な神名流し、路傍講演、個別訪問などがあるが、現在は新たにSNSたすけ、社会たすけなど多様化は進んで来ている。

同系統の教会でSNSたすけで年間十四人ほどの出入りのある教会がある。SNSで色々な事情で自殺願望や虐待などに苦しむ人に向け、「駆け込みどころ」があることをSNSで拡散するのがある。一度「駆け込みどころ」の案内を拡散すると沢山のダイレクトメールがあり、やり取りの後に教会に受け入れられるのである。

そんな簡単な方法で良いのか、個別訪問でないか、「心の成人」がないのではと言う方にもうだなどと思う気持ちもある。しかしよく考えると、どんなやり方、手段でもいいかと思ってしまう。例えば「ひのきしん」は掃除をする事と誤解されやすいがその意義は「日々の親神様の御守護に対する感謝の行い」である。

「にをいがけ、おたすけ」は「身上、事情に悩む方に助けの手を差し伸べ、またはお道を知らない方に親神様の思いをお伝えし、真に助かってもらう為」であると思う。

意義を見失わなければやり方は問われないと思う。実際、このSNSたすけのきっかけから住み込んだ方が社会復帰したり、あるいはお互いに助け合う姿があるようだ。

教祖は人たすけにはどんなやり方でも苦労がある。SNSたすけが本当に手軽で簡単なものか。

そうではない。教会で人を抱えたとすれば皆同じく苦労があり、結局そこにも心の成人もあるのではないか。今一度、固定観念を見直し、本来の意義を考えたいと思った。

私は、元々事情教会であった日徳分教会で育ち、おたすけの現場で幼少期を過ごさせて頂いた。特に行き詰まった方のおたすけが主であった。

日徳の一軒家の教会には最盛期で住み込みさんが二十名程いた。

その最中が私の幼少期にあたる。私は幼いながら、その一人一人の方が大変な事情の中を教会を頼りにして心を治め、そして自立し再出発される様子を見ていた。時には半ば出て行く人もあったと思う。日徳の両親のおたすけ心、たんのうの力は、根が張った様な強いものがあると思う。

現在、事情教会をお預かりして一年半程経った。立場上、教会に居住はしていないが、来年には教会に移る予定である。親の通ってきた道と、現代のお道の新たな流れを生かし、お預かりした教会が、神様が中心にある、おたすけ道場になり、様々な手段で難儀なる方の力になる教会にならせて頂きたいと思っている。

日徳分教会長

岡部喜徳